

## その他

### 長期入院の精神障害者の退院支援に関わる精神科看護の魅力

木村 美智子<sup>1)</sup>, 杉山 敏宏<sup>2)</sup>, 國方 弘子<sup>3)</sup>, 片岡 三佳<sup>4)</sup>, 谷岡 哲也<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>関西福祉大学看護学部, <sup>2)</sup>国際医療福祉大学看護学科, <sup>3)</sup>香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科,  
<sup>4)</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部看護学講座

**要旨** 本研究の目的は、長期入院の精神障害者の退院支援のための精神科看護の魅力について文献検討により明らかにすることである。日本においては長期入院の精神障害者に対する積極的な退院支援が行われている。しかし、退院後の継続的な支援環境が整わないために、退院できない状況もあり、看護師は仕事への無力感を感じる場合も多い。それでもなお、精神障害者の退院支援に魅力を抱いている看護師がいる。したがって看護師らが退院支援に対して抱く魅力は何かを明らかにすることが長期入院の解決に対して重要である。文献検討の結果、長期入院の精神障害者の退院支援の魅力として(1)患者との相互作用のなかでの自己洞察と自らの人間的成長、(2)患者と看護師の関係発展過程から得られる患者の本質的な理解、(3)看護師が主体性を持って患者と関わるができるという特徴が示唆された。

キーワード：精神科看護，長期入院，看護の魅力，精神障害者，退院支援

#### はじめに

日本では精神障害者の長期入院の解消が大きな課題となっている。しかし、諸外国と比較して長期入院患者の解消は進んでいない。精神科病院の脱施設化という視点でみる限り、欧米諸国より20年以上遅れ、ようやく緒についたという段階といえる<sup>1-3)</sup>。

厚生労働省<sup>4)</sup>は、今後の精神保健医療福祉のあり方として、「地域を拠点とする共生社会の実現」に向けて、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本理念に基づき、精神保健医療体系の再構築、精神医療の質の向上、地域生活支援体制の強化、普及啓発の重点的実施の推進を図るとしている。また、長期入院の精神障害者を中心とした地域生活への移行・定着に向けた積極的な退院支援を展開し、障害者自立支援法の制定や累次の診療報酬改定等、精神保健医療福祉の各側面にわたる具体的

な施策が展開されてきている。

しかし、退院支援やその施策が展開されているにもかかわらず退院できる患者数は多くない。その要因として、長期入院患者の家族が患者の退院に了解することが困難であること<sup>5-7)</sup>、また退院支援の分析結果<sup>7)</sup>では、精神症状よりも能力障害が退院の成否に影響を及ぼしていることが報告されている。加えて、精神症状の軽減・消失がみられるにもかかわらず、精神障害者を取り巻く環境<sup>8)</sup>が退院を阻む要因(社会的不利)として指摘されている。

積極的な退院支援を行ったとしても前述したような患者や家族側の要因、退院後の継続的な支援環境が整わないために、患者が退院できない状況もあり、看護師は仕事に対する無力感を感じる<sup>9)</sup>場合も多い。そればかりではなく、看護師の側にも患者が退院後に地域で生活を営む能力を低下させる要因がある<sup>10)</sup>。それでもなお、精神障害者の退院支援に力を注いでいる看護師を臨床で散見した。こうした状況から、看護師が退院支援に対して魅かれるものは何かを文献検討により明らかにすることが今後の長期入院の解決や退院支援に対して重要な意義を示すものと考えた。

2010年11月4日受付

2011年2月3日受理

別刷請求先：木村美智子，〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3  
関西福祉大学看護学部

### 精神科看護の魅力

魅力という言葉は、「人の心をひきつける力」<sup>11)</sup>と説明されている。また、心理学領域<sup>12)</sup>においては、「対人魅力」ととらえ「人が他者に対して抱く好意や嫌悪」としている。この観点から精神科看護の魅力について検討をすすめる。

神郡<sup>13)</sup>は、精神科看護の魅力について以下のように述べている。

看護を行う過程で、関わり方の難しい患者の特徴を捉えるときに、人間的なふれあいを通じ、看護とは何か、人間とは何かを考えさせられる。そこには、人間理解や自己洞察といった看護の原点があることに気づかされる。また、社会の仕組みや家族のあり方を考える中で看護師自らの人間的成長が促され、それらによって自然にカウンセリングマインドが培われる。そのことにより、ほどよい満足感が与えられ、看護の達成感が得られることが精神科看護の魅力だろうと述べている。

次に福田<sup>14)</sup>は、精神科看護の魅力について、「創意工夫の楽しさ」と「自分が主体となって治療に参加できる」喜びを味わえることだと述べている。自分のちょっとしたひらめきで創意工夫する。また看護の過程においては、企画力と実行力があればいくらかでも自分が中心となって治療に参画できる。ちょっとした創意工夫で患者の「できない」が「できる」に変化し、小さな進歩が大きな喜びにつながり、エネルギーが湧いてくる。それが精神科看護の魅力だと述べている。さらに丸山<sup>15)</sup>は、看護師自身が主体性を持って患者と関わるができるということが精神科看護の魅力だと述べている。

日本精神科看護技術協会出版委員会<sup>16)</sup>が、30歳代の会員100人を対象に、看護の魅力について調査した結果では、「人間的成長に役立つ」と50%が回答し、ついで「精神障害者の回復に役立つ」、「精神医療に貢献できる」という結果であった。「人間的成長に役立つ」という点については、患者を知るとともに自分自身を見直し自分を知る、患者との関わりを通して新しい自分を発見し、いろいろな考え方や工夫・体験がスタッフ間で共有されたことでの自己の成長に繋がったことが報告されていた。

これらのことから、精神科看護の魅力とは患者と看護師の関わりの中で相互作用が生じ、「看護師自身の人間的成長」が得られること。加えて、福田<sup>14)</sup>や丸山<sup>15)</sup>が述べる「主体性を持って治療に関われる」ということが精神科看護の魅力といえるかもしれない。

### 長期入院となる背景の看護観

精神障害者の長期入院の背景には、以前の収容主義の影響がある。加えて、長期入院の精神障害者の地域移行への支援の課題となる家族の高齢化、障害者自身の能動性の減退、現実検討能力の障害、社会性の低下などがある。

しかし、看護師のなかには、「収容」されている精神障害者として患者をとらえる旧態依然の看護観を持つ者がいる<sup>10)</sup>。野中<sup>17)</sup>は、その援助関係は看護師が良いと判断したことを「してあげる」という父権主義（パターナリズム）があることを指摘した。また岡本<sup>18)</sup>もこうした援助関係に注目し、看護師の援助観が長期入院患者の退院の阻害要因となることを指摘した。

石橋<sup>19)</sup>らは、長期入院の精神障害者の社会復帰への援助を阻害する看護師の要因として、患者の症状や問題点に看護師の関心が固定していたり、生活を管理したりすることしか思い浮かばない「症状・問題中心の捉え方」があることを指摘している。それらには、病院環境への生活適応をすすめるような日常生活全般を援助（custodial care）する療養環境がある。

倉持<sup>9)</sup>は、慢性期病棟における看護師の抱く無力感の要因を、患者、家族、退院後の社会に対して働きかけても変化や効果がなく見通しが持てない。そのため充実感ややりがいがない、医療チームとして前向きに協力し合えない、看護師としての限界を感じると述べている。

### 長期入院精神障害者の退院支援とケアリング

稲岡ら<sup>19)</sup>は、意図的な治療的看護介入として、受け持ち看護師が日常生活や社会生活上の援助を責任持って行かない、患者の内的な世界を察知し「共感的に理解する」、患者に温かい「思いやりと関心」を持つ、患者の健康的な領域に目を向け、自立を支援するという関わりの有効性を明らかにしている。

また松枝<sup>20)</sup>は、日本版治療共同体に主眼を置いた超長期入院患者の社会復帰への援助が成功する要因として、看護師が患者、家族、住民、精神保健福祉チームとの相互作用のなかで、「看護師が変わる」必要性を述べている。業務中心の看護から患者の潜在能力に着目した援助を行うことで、看護師は患者の変化が嬉しくなり、変化への希望を持ち、毎日が楽しいという感情が湧き、さらに退院への働きへの動機となる。

片岡ら<sup>21)</sup>も長期入院患者の社会復帰に向けて援助した看護師が実践を通して得たことに、患者の力を実感したことや看護師の成長を実感していたことを報告している。看護師が成長を実感したことは、自分の看護の広がりや仕事への充実感であった。看護の広がりとは、見えなかった患者の一面や内面が見えてきたことや患者の変化を察知できたことであり、患者の社会復帰に向けた援助をあきらめてはいけないということを示していた。また、仕事への充実感、看護実践によって患者の表情が変化したことで看護への自信や仕事の楽しさ、充実感を示していた。

松枝や片岡が示す看護の実践には、「人の心をひきつける力」が態度、感情、行動として表されており、長期入院の精神障害者の退院支援には、看護師が抱く看護の魅力が喚起されるような要因が多く含まれていると考えられる。さらにこのような、ケアされる人が癒され自己実現に向かうばかりでなく、ケアする人も変化し成長することを、メイヤロフ<sup>22)</sup>は「ケアリング」と述べている。

またボイキン<sup>23)</sup>は、ケアリングについて「他者と共に存在することによって関係が生まれ、そして喜びの瞬間を共に経験することができる」と述べている。

看護師は長期入院患者の退院支援の中で、ケアリングを行う人として自己の可能性を広げている。このケアの過程は、他者との関係を育むことを通して強化され、関係の質はケアリングを通して変わる。これらの関係がケアリングを通して形作られる。長期入院の精神障害者が、我々看護師の気持ちのこもった介入により、患者が自尊心を取り戻し、日常生活能力を取り戻し、社会復帰できること、その過程で患者とともに喜ぶなかに、長期入院の精神障害者の退院支援という看護に魅力を感じていると考えられる。

### おわりに

以上の文献検討から、長期入院の精神障害者の退院支援は、ケアリングとしての看護のような愛他的な行動を行うことによって、看護師自らの精神のレベルの欲求を充足できる仕事となっている。それは、自己実現のためだけではなく、自分と他者、社会における自己の存在の意味、精神的な成長という点において重要である。つまり支援を通して看護観の変化や広がりが見られ、ケアリングをする人としての可能性の広がりを実感できるところにある。

長期入院の精神障害者の退院支援の魅力は、(1) 患者との相互作用のなかでの自己洞察と自らの人間的成長、(2) 看護師と患者の関係の発展過程から得られる患者の本質的な理解、(3) 看護師が主体性を持って患者と関わることができることである。

### 文 献

- 1) Tanioka, T., Mano, M., Takasaka, Y., *et al.*: Challenge of psychiatric rehabilitation for patients with long-term hospitalizations using the Nirje's normalization principles as a valuation standard: two case studies. *J. Med. Invest.*, 53(3-4), 209-217, 2006.
- 2) Miyata, H., Tachimori, H., Takeshima, T.: Providing support to psychiatric patients living in the community in Japan: patient needs and care providers perceptions. *Int. J. Ment. Health Syst.*, 2(1), 5, 2008.
- 3) Griffiths, K. M., Nakane, Y., Christensen, H., *et al.*: Stigma in response to mental disorders: a comparison of Australia and Japan. *BMC Psychiatry*, 23(6), 21, 2006.
- 4) 厚生労働省のホームページ (2010年8月アクセス) <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/09/s0903-5.html>
- 5) 大阪府健康福祉部障害保健福祉室精神保健福祉課: 平成18年度大阪府精神障害者退院促進支援事業報告書
- 6) 宇佐美しおり, 岡谷恵子 編: 長期入院患者および予備群への退院支援と精神看護, 29-31, 医歯薬出版, 2008.
- 7) 谷岡哲也, 川村亜以, 大坂京子 他: 長期入院精神障害者の退院促進要因の分析: PsychomsTMを用いたバリエーション分析結果と薬剤との関係, *臨床精神薬理*, 11(8), 1551-1562, 2008.
- 8) 上野修一, 大蔵名雅夫, 谷岡哲也 編著: 精神医学, 外医学社, 2007.
- 9) 倉持裕子: 精神科慢性期病棟において看護師が体験する無力感とその変化の過程, *心身医学*, 46(6), 569, 2006.
- 10) 石橋照子, 川田良子, 曾田教子 他: 長期入院精神障害者の社会復帰への援助を阻害する看護師の捉えと態度, *日本看護学会誌*, 11(1), 11-20, 2002.
- 11) 古田東朗監修: 旺文社標準国語辞典(第6版), 旺文社, 974, 2001.

- 12) 中島義明, 安藤清志, 子安増生 他編: 心理学辞典 (初版), 550, 有斐閣, 1999.
- 13) 神郡博: 精神科看護の魅力, 精神科看護, 38, 2-6, 1992.
- 14) 福田洋子: 精神科看護の魅力, 精神科看護, 38, 26-27, 1992.
- 15) 丸山康彦: 病棟だよりを利用してー自己満足から魅力へー. 第23回日本精神科看護学会誌, 41(1), 540-542, 1998.
- 16) (社)日本精神科看護技術協会出版委員会: 精神科看護の魅力, 精神科看護, 38, 34-47, 1992.
- 17) 野中猛: 精神障害者リハビリテーション, 18-19, 中央法規, 2003.
- 18) 岡本朋子, 後藤知美, 橋田元気 他: 精神病院長期入院者の退院を阻害する因子ー1施設の看護師に対する面接調査よりー, 第34回日本看護学会論文集成人看護Ⅱ, 81-83, 2003.
- 19) 稲岡文昭, 西村俊彦, 太田茂 他: 退院困難な慢性精神分裂病患者への有効な治療的介入ー改善された事例と改善されなかった事例との比較分析をとおしてー, 日本看護学会誌, 8(1), 35-46, 1999.
- 20) 松枝美智子: 精神科超長期入院患者の社会復帰への援助が成功する要因ー日本版治療共同体における看護師の変化ー, 日本精神保健看護学会誌, 12(1), 45-57, 2003.
- 21) 片岡三佳, 高橋香織, グレグ美鈴 他: 精神疾患をもつ長期在院患者の社会復帰に向けての看護実践と課題(第一報), 岐阜県立看護大学紀要, 5(1), 11-18, 2005.
- 22) Milton Mayeroff: ON CARING, 1971, 田村真, 向野宣之訳, ケアの本質ー生きることの意味ー, 13-27, ゆるみ出版, 1987.
- 23) Anne Boykin & Savina O. Schoenhofer: A Model for Transforming Practice, 2000, 多田敏子, 谷岡哲也監訳, ケアリングとしての看護ー新しい実践のためのモデルー, 5-8, 西日本法規出版, 2005.

*Fascination of positive programmed discharge support and psychiatric nursing  
for long-term inpatient with mental disorders*

*Michiko Kimura*<sup>1)</sup>, *Toshihiro Sugiyama*<sup>2)</sup>, *Hiroko Kunikata*<sup>3)</sup>, *Mika Kataoka*<sup>4)</sup>, and *Tetsuya Tanioka*<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>*Department of Nursing, Kansai University of Social Welfare, Hyogo, Japan*

<sup>2)</sup>*Department of Nursing, International University of Health and Welfare, Tochigi, Japan*

<sup>3)</sup>*Department of Nursing, Kagawa Prefectural College of Health Sciences, Kagawa, Japan*

<sup>4)</sup>*Department of Nursing, Institute of Health Biosciences, the University of Tokushima, Tokushima, Japan*

**Abstract** The purpose of this literature study is to clarify the fascination of positive programmed discharge support (PPDS) and psychiatric nursing for long-term inpatient with mental disorders. Long-term psychiatric hospitalization remains as a major problem in Japan. PPDS is performed to such inpatient with social hospitalization. Despite nurses' efforts with the best intentions, some nurse feel powerless to work because patient cannot discharge from a hospital by reason that living environment after patient leaves hospital was not ready. Therefore, it is important to clarify nurses' fascination for PPDS and their achievement motive to work to solve prolonged hospitalization. The result of literature review, it was suggested that fascination of psychiatric nursing have the following features: ( 1 ) nurse's self-insight and personal growth in the interaction between patient and nurse, ( 2 ) intrinsically understanding of patient obtain from developmental process in the interaction between patient and nurse, and ( 3 ) psychiatric nurse is able to intervene to the patient independently.

*Key words* : psychiatric nursing, long-term hospitalization, fascination of psychiatric nursing, patients with mental disorders, positive programmed discharge support